

Procedure time for gastric endoscopic submucosal dissection according to location, considering both mucosal circumferential incision and submucosal dissection

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小沼, 宏徳 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002203

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2398 号

Procedure time for gastric endoscopic submucosal dissection according to location, considering both mucosal circumferential incision and submucosal dissection

(胃腫瘍性病変に対する内視鏡的粘膜下層剥離術における粘膜全周切開と粘膜下層剥離からみた部位別治療時間の検討)

小沼 宏徳 (こぬま ひろのり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、胃腫瘍性病変の内視鏡的粘膜下層剥離術(endoscopic submucosal dissection; ESD)について従来の報告にあるような胃を上部、中部、下部の3領域に分類するのではなく、手技の難易度が異なる状況を周囲粘膜の状態、病変の血管分布、粘膜下の脂肪の存在、潰瘍、癒痕、線維化、およびスコープや処置具操作性のような複数の基準に基づいて、12の領域に分類した。更に、ESDを粘膜全周切開と粘膜下層剥離の2段階に分けて処置時間から粘膜全周切開速度(circumference incision speed; CIS)と粘膜下層剥離速度(submucosal dissection speed; SDS)をそれぞれ算出し比較検討した。その結果、CISとSDSはそれぞれ領域ごとの有意差を認めており、この分類システムの有用性が実証できた。CIS, SDSを「fast」、「moderate」、「rate」の3グループに分けた検討ではCISとSDSで難易度が一致しない領域があることを示した。また、CISではそれぞれのグループ間に有意差が認められ、SDSでは「moderate」と「rate」のグループ間には有意差を認めなかったものの、「fast」と「moderate」の間には大きな差があることを示した。

本論文は胃ESDにおける領域を新たな条件をもとに定義し、その領域ごとのESD施行時間を粘膜全周切開、粘膜下層剥離の両面から比較検討し、それぞれの有意差を示したものである。ESD施行時間を予測するための要因を明らかにし、従来の報告よりも詳細な領域分類が必要であること、粘膜全周切開、粘膜下層剥離は別々に難易度を評価する必要性があることを初めて明らかにした臨床的に意義のある論文である。

よって、本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと判定した。